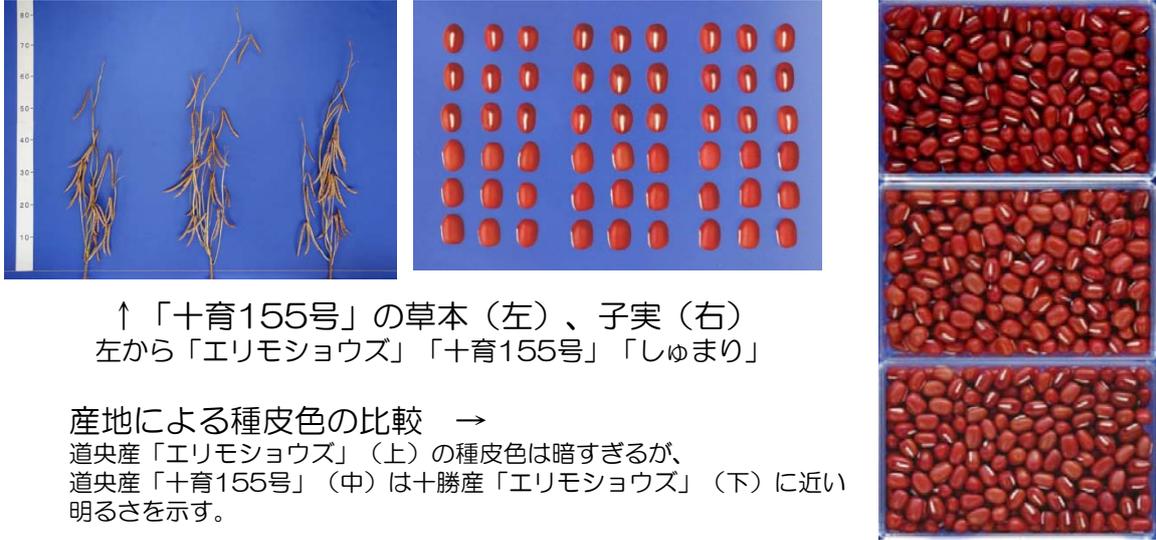


● 新 品 種

■ 道央・道南に適した、多収で病害に強いあずき「十育155号」



↑「十育155号」の草本（左）、子実（右）
左から「エリモショウス」「十育155号」「しゅまり」

産地による種皮色の比較 →
道央産「エリモショウス」（上）の種皮色は暗すぎるが、
道央産「十育155号」（中）は十勝産「エリモショウス」（下）に近い
明るさを示す。

■ DNAで選んだ！

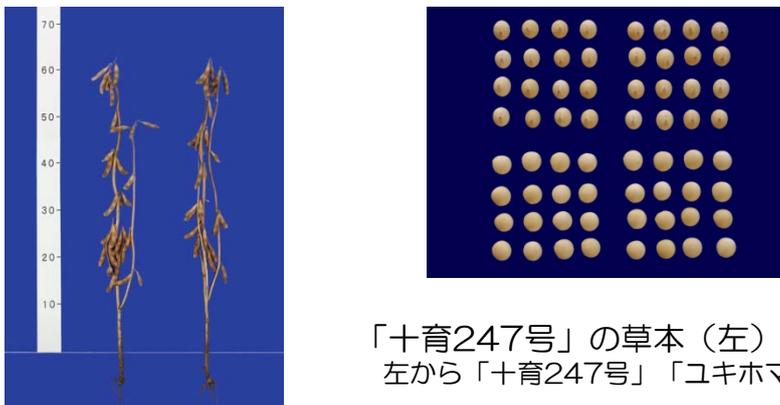
★インゲンマメ黄化病にかからない金時「十育B78号」



↑「十育B78号」の草本（左）、子実（右）
左から「福勝」「十育B78号」「大正金時」

黄化病被害程度の比較 →
「福勝」は黄化病に弱い（左）が、「福勝」に黄化病抵抗性を導入し、
黄化病にかからない金時「十育B78号」（右）が育成されました。

★センチュウ抵抗性“極強”のだいず「十育247号」



「十育247号」の草本（左）、子実（右）
左から「十育247号」「ユキホマシ」

■ 倒伏に強くマメ科牧草に負けない早生チモシー「北見25号」

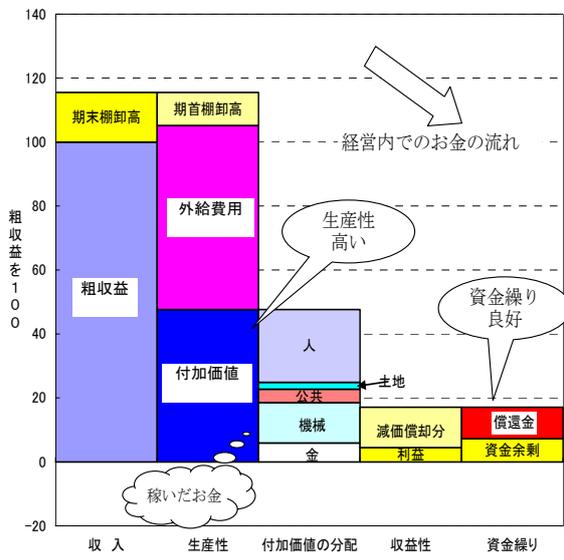


1番草における倒伏状況（多肥試験区）
（左「ノサップ」 右「北見25号」）

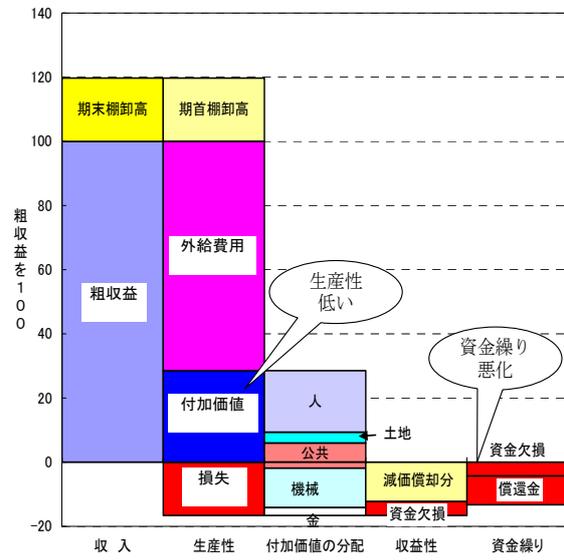
アカクロローバ混播条件における2番草の生育状況
（左「ノサップ」 右「北見25号」）
「北見25号」はマメ科牧草との競合力が高く、混播適性に優れる。

● 新 技 術

■ 農業生産法人向け診断ツール「農試式経営診断」



基準値(経営状態が良好な法人)



当年の自己実績(経営状態が悪化している法人)

開発した「農試式診断グラフ」 ～経営内のお金の流れが一目でわかります～

■ 肥効調節型肥料を用いた野菜の効率的施肥法



左：ポット内施肥した苗
（中央の培土表面に見える白い粒は肥効調節型肥料）
シグモイド型の肥効調節型肥料のうち、育苗期間中の窒素溶出が極めて少なく培土のEC値を上昇させない肥料を、培土に対して重量比で5%程度添加します。

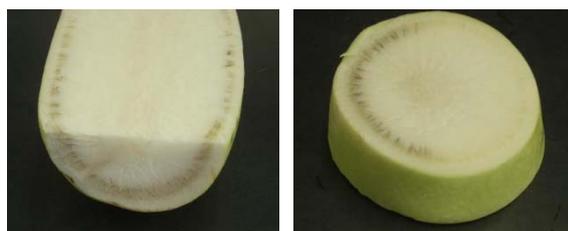
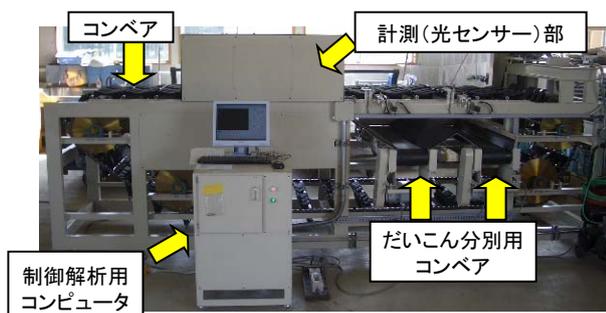
右：慣行苗

■ 安心して安定した水稻種子消毒！
 ～化学農薬を使わない種もみの消毒法～



左：褐条病 ～葉しょうや葉身に褐色のすじ（条斑）が入るのが特徴～
 中：苗立枯細菌病 ～第一葉の葉身基部が白化または黄白化する特徴～
 右：催芽には循環式催芽器を使用します！

■ 光センサーで見える！だいこんの内部障害（パーティシリウム黒点病）



だいこん搬送用コンベアを装備した
 内部品質計測・選別機
 * コンベア中央のボックスが計測部。
 手前に制御解析用コンピュータを設置。

だいこんのパーティシリウム黒点病の症状
 ～表皮内側の維管束に黒変症状がみられる～

■ アスパラガス調製残渣（根元の部分）の機能性評価と有効利用



アスパラガス調製残渣（出荷調製後の根元部分は、生食には適しません糖や機能性成分を多く含み、加工食品への活用が期待できます）



アスパラガス調製残渣を利用した加工食品
 （左下から右回りで、大福、プリン、ラーメン）

● 現地普及活動事例

■ 若手パワーの結集による中山間農業の展開と遊休農地の解消



北成地区懇談会における
地域のあり方検討



鷹栖町特産品トマトジュース
「オオカミの桃」の
原料トマト栽培指導



女性グループ「あいベリー」の
小果樹収穫

■ 地域営農のシステム化による農業所得の向上



TMR飼料の配送

平成18年8月からTMRセンターが稼働し
個別配送を始めた。サイレージの取り出しや
給餌作業にかかる労働時間は大幅に削減。



サイレージ調製作業

十分な踏圧を行いながら大型バンカー
サイロにサイレージを調製。栄養価、
発酵品質とも改善され、貯蔵ロスも
大幅に減少。



流氷とうもろこし生産組合

所得の確保と輪作体系の維持をねらいに、
生食用スイートコーンの栽培に着手。平成
18年から出荷を行い、着実に販売高を
伸ばしている。



収穫目合わせ会

生食用スイートコーンの産地化を図り、
市場性を高めるため、出荷する製品の
均一性確保と安定出荷に取り組んでいる。